

静岡県漁業協同組合連合会
1113 静岡市追手町 9-18
16.10.8 054-254-6011
編集・発行 = 指導部漁政課

1. 第24回全国豊かな海づくり大会 香川県・高松市で盛大に開催

第24回全国豊かな海づくり大会が、去る10月3日香川県高松市のサンポート高松において大会史上初めての県庁所在地で、天皇・皇后両陛下をお迎えして開催されました。

大会は、「青い海 守る心に 豊かな未来」をテーマに「創造と交流の海」を基本理念とし、水産業の持続的発展、海域環境保全の重要性について理解を深めるとともに、豊かな自然や食文化など香川の魅力を全国に発信することを目的に、本会からの西川会長をはじめとする23人を含む全国の漁業関係者約2,000人と、一般市民を含め約50,000人が参加し盛大に開催されました。

オープニングでは、アトラクション会場の川北文雄香川県副知事のウェルカムメッセージで始まり、この模様が中継映像で式典会場に上映され、功績団体の紹介、香川県紹介の映像上映に続き、服部郁弘JF香川漁連会長より開会の言葉で式典が始まり、河野洋平全国豊かな海づくり大会会長(衆議院議長)、真鍋武紀香川県知事の挨拶、増田昌三高松市長が歓迎の言葉を述べ、続いて天皇陛下より「多くの関係者が連帯感をもって瀬戸内海の再生に努力を重ねていることは心強い。種苗放流や漁獲制限などの取り組みにより、減少したサワラの漁獲量が着実に増加していることはこの努力を示すもので、うれしく感じています。関係者の協力で多くの魚介類の資源が増加していくことを期待しています」とのおことばを賜りました。

引き続き、栽培漁業や資源管理型漁業及び漁場保全に功績があった団体や作文・写真・絵画・習字の入賞者の表彰が行われ、大会会長賞を受賞した石井裕子さん(観音寺市立豊田小5年)が「おじいちゃんのいりこ飯」を朗読発表しました。

次いで、クルマエビ、アカガイ、アマモが両陛下から漁業後継者夫妻にお手渡しされ、放流船により放流場所へと運ばれました。

引き続き、小豆地区の12名の子ども達による「二十四の瞳メッセージ」、消費者代表親子によるメッセージが述べられた後、漁業後継者の濱元利喜・まき夫妻より誓いの言葉が述べられ、植村正治大会推進委員会会長(JF全漁連会長)が大会決議を朗読、満場の拍手をもって採択され、最後に大会旗が次回開催県の神奈川県に引き渡されました。

海上歓迎行事では、放流船のお見送り、香川の漁業種類を代表する漁船パレードが行なわれ、続く放流行事では、天皇・皇后両陛下が初めて稚魚の量産に成功したタケノコメバルをはじめ、ヒラメなど4種類の稚魚をご放流されました。

2. トラフグ初水揚げ

遠州灘の新しい名物となったトラフグ漁が10月1日から解禁を迎え、浜名漁協所属の約70隻のフグ延縄漁船が出港し、当日初水揚げが行われました。

浜名漁協によると、初日の水揚げ量は1,080^{キロ}(昨年3,600^{キロ})で、1^{キロ}当たり平均7,343円(昨年5,200円)で取引されました。トラフグの1匹あたりの平均体重は約1.5^{キロ}で、4.7

^{キロ}の大物も水揚げされました。昨年の県内のトラフグ水揚げ量は55^{トン}で、このうち舞阪漁港には31^{トン}の水揚げがありました。

県水産試験場浜名湖分場によると、昨年生まれたトラフグが少ないため今年は2~3歳魚が中心で、漁獲量は15~20^{トン}くらいとなり、大きめのトラフグが出回ると予測されています。

3. 県内シラス不漁 黒潮大蛇行の影響か

県内のシラス漁が、今年に入って不漁が続く県内のシラス漁業者は大きな打撃を受けています。

県水産試験場がまとめた静岡・吉田・御前崎・福田・舞阪・新居の県内主要6港の水揚げ量は、今年3~8月は1,622^{トン}で、やや不漁気味だった昨年と比べ58.5%と大幅に減少し、平年(平成11~15年平均)比では、68%減少し3分の1に落ち込んでいます。また、市場価格は昨年8月で1^{キロ}当たり500~1,000円でしたが、今年は1,200~1,500円にまで高騰し、シラス加工業者においても大きな打撃となっています。

不漁の原因として、14年ぶりに黒潮の大蛇行が発生して本県沿岸域への影響が強くなってシラスが分散したり、静岡県周辺は栄養分の低い黒潮の支流に覆われ、シラスの餌が不足していることなどが考えられます。例年黒潮の流れは日本列島に沿って流れていますが、今年はシラス漁の最盛期の8月頃に大蛇行が発生し、紀伊半島周辺でいったん大きく南下後、伊豆半島南端に向けて北上する流れになっています。

4. 全国漁協大会が平成17年11月に開催

JF全漁連では、全国の漁協代表者らが中心に約1,000人が集う、次期全国漁協大会(全国漁協代表者集会)を平成17年11月中旬に開催することを決定しました。

開催の必要性については、17年度は 前回(平成14年11月22日開催)の運動方針決定以降、JFグループはJF合併、事業改革、経営改革への取り組みを進めていますが、組合員の期待と信頼に応える自立JFの構築に向けて、JF改革の実現をより確実なものにする19年3月公表予定の新水産基本計画を踏まえた水産施策に対し、政策提言に基づくJFグループの意見を反映する わが国漁業の安定的・持続的発展に向けて、WTO・FTA問題についてもJFグループとして取り組みを強化していく必要があると、位置付けており、JFグループにとって節目の年であることから、JFの合併完遂を含めたJFグループ自らの改革にかかる確実な実践と、新政策に対するJFグループの取り組みについて全国漁協大会を開催し、決定する必要があるとしています。

なお、今後の漁協大会の運動期間については、4年ごとの開催を提案しています。

5. 諸会議・日程(10月12日(火)~10月25日(月))

- 既報分省略 -

10月21日(木) 県漁連 = 第5回理事会 (県水産会館)

” 県遊漁船業協会 = 主任者講習会 (三島市民文化会館)

10月21(木)・22日(金) 県桜えび漁業組合 = 桜えび生産技術研修会

(21日/由比港漁協、22日/大井川町漁協)

10月23日(土) 県おさかな普及協議会 = 魚料理研修会 (アイセル21)

10月25日(月) 県漁業信用基金協会 = 監事会 (県水産会館)